

新年を迎えて



賀正

『半島先端の価値の創生』

に力を合わせて

積丹町長 松井秀紀

明けましておめでとうございます。

令和4年の新しい年を町民の皆さんとともに元気で迎えることができましたことを、大変嬉しく思います。

新型コロナウイルス感染症が北海道で初めて確認されてから、間もなく2年が経過しようとしています。

今も新たなコロナ変異株の世界的な広がりが懸念される中、町民の皆さんには「自分の命を守る・家族の命を守る」「町ぐるみの感染予防運動と、経済危機を乗り越える懸命の取組みにご協力をいただきました。

また、IP電話機能の老朽対策や美国漁港の整備など、数多くの町の懸案課題の克服への私の願いに、町議会議員の皆さんとともに、いつも真剣に耳を傾けていただいてまいりました。

そうした町民の皆さんの深いご理解と温かいご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は「コロナ禍の苦難」が続く中にありましたが、若い漁業者の弛まぬ努力から、ウニ殻の活用による漁場の再生産技術の新発見や、町内産業経済団体の熱心な誘致活動が、国内に1基しか現存しない旧神威岬灯台のフランス製第一等レンズの里帰り実現など、積丹町発の町の活性化への挑戦と協働の形と力が高く評価され、全国に発信される出来事がありました。

新しく迎えた令和4年、政府はコロナの国難を克服し、「自然、季節、文化、食」が揃う美しく豊かな農山漁村を守り、官民が連携して、地方への人の流れをつくる。都市と農山漁村の共生

社会“の実現への果敢な取組みを地方に期待しています。

また、「持続可能な開発目標（SDGs）」や「カーボンニュートラル（地球温暖化対策）」、「デジタル社会（高度情報通信技術活用社会）」などに象徴される新しい用語は、世界のすべての国や人々が国境を越えて取組むべき重要な共通の課題として、私たちの生活の中でその重要性を実感する時代を迎えています。

私たちは、「過疎との闘い」という困難な情勢下にあっても、「あきらめないことの大切さ」、「小さい町のすばらしさ」をまちづくりのモットーに、町の「健全財政の維持」と「公共行政サービス水準の維持」と「町の活性化」という3つの課題の克服と両立を基本に、急がれる温泉の民営化や防災・減災対策、役場庁舎の老朽化対策など多くの懸案の解決を目指し、そして、全道179市町村の一員としての使命と信頼を担い、町民と議会と行政が共に力を合わせていかなければなりません。

私は、国や道、民間機関など本町の地方創生に情熱を燃やす「積丹応援団」の方々との連携と協働の力をお借りし、その信頼関係を大切にしながら、そして町民の皆さんの融和と郷土愛を大切に、私たちの「郷土・積丹のまちづくり」に弛まぬ努力を続けてまいります。

令和4年の新春を迎えて、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

令和4年、2022年



迎春

「いつまでも住み続けられる町づくり」

積丹町議会議長 岩本幹兒

積丹町の皆様、新年あけましておめでとうございます。
令和4年の新春を皆様と共に迎えできましたことを心から
お喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大変きびしい
経済状況の中で、積丹町のため、自分の家族を守るために
懸命に頑張っている町民の皆様に心から感謝と敬意を申し上げ
ます。

新しい年を迎え、新型コロナウイルス感染症拡大がかなり
おさまってきているとは言うものの、「第六波」が懸念され
るなど先行きは不透明でまだきびしい状況は続いていくと思
われます。格差社会も進んでおります。弱者救済、相互扶助
の精神を今一度思い起こす時だと思っております。

それから、積丹町には町民の皆様がまだ気付かれていない
数多くの資源があります。まだまだ発展の可能性がある町で
す。小規模町村は小規模町村なりに、高齢者が多い町は高齢
者が多い町なりにその良さがあるはずです。いつまでも住み
続けられる町づくりを目指して、今こそ町民の英知と力を結
集して立ち向かう時だと思っております。

立ち向かう壁が高ければ高いほど、その先に見る景色は、
世界は素晴らしいものになるはずです。みんなでその壁を乗
り越えるべく頑張つてまいりましょう。

我々議員もみんなで知恵を出し合つて、懸命に頑張つてま
いります。町民の皆様の更なる温かいご支援、ご理解、ご協
力の程をよろしくお願い申し上げます。

町民の皆様のご健康とご多幸、更には、令和4年が積丹町
にとって今年こそ良き年になることをご祈念申し上げます。
で、新年のご挨拶とさせていただきます。

